

平成 22 年 5 月 15 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：19330123
研究課題名（和文）日系ブラジル人児童を中心とした多文化保育の総合的研究

研究課題名（英文）
General research centered on the multi-cultural child care of Japanese Brazilian children

研究代表者
品川 ひろみ (SHINAGAWA HIROMI)
札幌国際大学短期大学部・幼児教育保育学科・准教授
研究者番号：80389650

研究代表者の専門分野：保育社会学
科研費の分科・細目：社会学
キーワード：国際社会、エスニシティ、日系ブラジル人、多文化保育

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、日系ブラジル人児童を中心とした多文化保育の現状と課題を、多角的な視点から明らかにすることである。その際、外国人児童の中でも近年特に増加している日系ブラジル人を主たる対象としていく。

本研究では(1)日本国内における調査に加え(2)ブラジルにおける子どもの保育を検討することで、その現状と課題を明らかにすることにある。

具体的にはブラジル調査では、日系、イタリア系、ドイツ系など多文化保育を行っている幼稚園を対象にした調査を行い、日本における多文化保育の特徴を浮き彫りにする。さらにブラジルに在住している日系ブラジル人の子育ての現状や意識を明らかにすることで、彼らが望む保育環境とは何かを探る。

日本国内の調査では、日系ブラジル人が集住している地域を対象として、保育所やブラジル人託児所の実態を明らかにする。また国内において先進的な取り組みをしている保育所を調査することで、望ましい多文化保育のあり方を探る。さらにそれらの調査を通して、子どもだけでなく、家族にとって、保育がどのような役割を果たしているのか、果たすことができるのかといった家族支援の実態についても、検討したいと考えている。

2. 研究の進捗状況

予定していた調査の中でブラジルにおける調査では、ブラジルサンパウロ市にある、

日系、ドイツ系、イタリア系の幼稚園のヒアリング調査を終えることができた。また日系の幼稚園においては、保護者に対するアンケート調査を実施した。その結果、子どもに対するしつけの在り方や教育期待などに違いが見られた。さらにサンパウロ市教育局の協力のもと、公立の保育所の状況についての情報を得ることができている。これは、サンパウロ市の保育の基本情報に加え、実際の保育園の訪問を通して、保育所において多文化をどの様に扱っているのかについて見ることができた。

一方、国内の調査では、ブラジル人が集住している浜松市を対象として、認可保育所のヒアリングおよび保護者と保育士に対するアンケート調査を実施した。さらに比較対象として、認可外の施設であるブラジル人託児所を対象としたアンケート調査も行っている。

また国内において先進的な取り組みをしている地域として、福井県越前市ならびに愛知県知立市を対象として調査を行った。これらの対象園では、日系ブラジル人児童や保護者のための通訳を配置している。ポルトガル語ができる通訳について、学校教育においては、珍しいことではないが、保育所では現場の希望はあっても実際に取り入れている自治体は少ない。

そこで、通訳を取り入れていることで、子どもや保護者、さらには保育士に対する効果について明らかにする目的でアンケート調査を実施した。また調査項目の一部は、ブラジルにおける調査項目と比較できるように設計している。現在調査は終わっているが、分析については今年度を予定している。

国内調査では、小学校を対象とした調査も行っている。望ましい多文化保育のあり方を探るためには、保育機関における実態を見ていくだけでは充分とはいえない。その後の学校教育における実態を踏まえることで、学校教育の前段階である保育機関の役割や方法を検討する一助となる。

本調査の対象である小学校では、日系ブラジル人児童の比率が約半数という実情である。その様な中、日本語の習得が困難なため、授業や学校生活での難しさを感じている児童も多いという。そのため、低学年児童の国語教育担当教員が中心となり、習熟度別に授業の教材を工夫し、授業を行っている。それらの児童の現状について教員に対するインタビュー調査を行っている。これについても、詳細な分析については今年度（平成 22 年）を予定している。

3．現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

本研究については、計画していた海外の調査並びに国内の調査については、ほぼ順調に進んでいる。ただし昨年度予定していた行政を対象とした日系ブラジル人児童の在籍調査はまだ未実施であるので、今年度実施することを目指している。

研究成果については、論文、学会発表については、すべての調査や分析が終わっていなかったため、充分とはいえない面がある。最終年度である平成 22 年度に、これまでの調査の分析をすすめて、多様な機会に報告、投稿していきたいと予定している。

4．今後の研究の推進方策

今後の研究の推進方策については大きく分けて2つある。

1つは、まだ全く分析していないデータの整理である。ブラジル調査においては、ドイツ系、イタリア系学校におけるヒアリング調査の結果や、サンパウロ市で得た保育関連のデータ分析等である。特に、サンパウロ市における調査では、私立の保育園と公立の保育園の両方を見ているため、単純に日本とブラジルの比較だけではなく、国内における差異についての視点も持ちながら分析を進めたい。これらについては、最終年度である今年、分析しまとめる予定である。

一方で国内調査においては、21 年度に行ったアンケート調査やインタビュー調査についてのデータ分析がまだ行われていない。またこれらの国内調査の結果については、ブラジル調査における保護者の意識との比較や、保育の現状についてもブラジルと日本の比較という視点を持ちながら、最終的な研究の目的を達成するように勧めたいと考えている。

さらに本研究を通して、最終的には日系ブラジル人児童を中心とした多文化保育の現状と課題を書籍として出版したいと考えている。

5．代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計6件)

調査報告書(査読無)

『多文化保育研究』研究報告書1, 品川ひろみ編著「日系ブラジル人の保育」-日本とブラジルの調査をもとに-2009年3月31日
共同執筆者(連携研究者)

野崎剛毅(國學院短期大学講師)

新藤慶(新見公立短期大学講師)

小野寺理佳(名寄市立大学保健福祉学部准教授)

小内透(北海道大学大学院教育学研究院教授)

〔学会発表〕(計1件)

日本家族社会学会 平成21年9月13日(於:奈良女子大)「デカセギが家族に与える影響 -日系ブラジル人の子育てを中心として-」

〔図書〕(計2件)

品川ひろみ,野崎剛毅,上山浩次郎「ブラジル人の子どもの保育」小内透編著『在日ブラジル人の教育と保育の変容』御茶の水書房2009年。

品川ひろみ,野崎剛毅「保育所における日本人と外国人」小内透編著『在日ブラジル人の教育と保育の変容』御茶の水書房2009年,共著。